沖縄宮古島住民の血液像（白血球分類）について

琉球衛生研究所　寄生虫部
城　間　盛　吉

1　緒　　言

沖縄は高温多湿の亜熱帯に属し、熱帯性疾患が多く日本本土と様相を異にしている。私はＷＨＯの宮古、八重山諸島マラリア終熄宣言の基礎調査資料として１９６６年６月宮古保健所から検査依頼された宮古島のかってのマラリア有病地平良市、下地町、城辺町、上野村の４市町村の住民１５,６５０人から採血作成したマラリア原虫標本（厚層、薄層２枚の標本）の薄層標本から無作為に４００名を抽出し、白血球分類を行ったのでその調査成績について報告する。

Ⅱ　調　査　方　法

1　宮古島２６部落２施設１５,６５０名を対象にマラリア採血の際厚薄２枚の標本を作成し、その中の薄層標本４００枚について白血球分類を行った。尚標本はギムザで染色した。

2.　標本は白血球２００個計算しその百分率をだした。

3.　白血球分類の年令分布については下記の４段階に分けた。即ち０～４才、５才～９才、１０才～１５才、２０才以上

4.　調査期間は１９６７年～１９６８年２月である。

Ⅲ　調　査　成　績

４００名の白血球分類は好塩基球0.5％、好酸球2.6％、好中球は桿状核3.5％、分葉核44.2％リンパ球45.0％、単球4.2％の成績を得た。若干リンパ球の増多の傾向が見られた。年令分布に依る成績は第１表の通りである。

第１表　　年令分布による白血球　百分比（％）

	好塩基球	好酸球	好中球		リンパ球	単球
			桿状核	分葉核		
０～　４才	0.2	2.3	2.0	39.0	53.0	3.5
５～　９才	0.3	2.7	3.0	43.0	47.0	4.0
１０～１５才	0.5	2.5	4.0	47.0	42.0	4.0
２０才以上	1.0	3.0	5.0	48.0	38.0	5.0
平　　均	0.5	2.6	3.5	44.2	45.0	4.2

註・　数字は％を示す。

対象に白血球分類が行われているに過ぎない。私は宮古島マラリア原虫標本鏡検の機会を利用して作成された薄層標本について無依学に４００名を抽出して白血球分類を行なったのであるがその成績は上述の通りである。

沖縄宮古島は亜熱帯に属している関係上白血球の分類（又は百分比）は日本本土と異なるものと想像されたが、私の今回の調査成績は第２表の小宮悦造博士の成績と稍々一致している。

第２表　小宮悦造博士の白血球百分比（％）

	好塩基球	好酸球	好中球	リンパ球	単　球
成　人	0.5	3.5	55.3	36.6	5.0

第３表　宮古島に於ける成人の白血救百分比（％）

	好塩基球	好酸球	好中球		リンパ球	単　球
			桿状核	分葉核		
成　人	1.0	3.0	5.0	48.0	38.0	5.0

Ⅳ　結　　論

私は１９６７年７月から１９６８年２月に亘り宮古島住民の健康人４００名を対象に白血球分類を行ない下記の成績を得た。好塩基球0.5％、好酸球2.6％、好中球の桿状核3.5％、分葉核４４.２％リンパ球４５.０％、単球4.2％である。

終りに本調査に当り血液薄層標本を提供された宮古保健所砂川恵徹所長並びに琉球衛生研究所国吉真英試検査課長の御指導に対し感謝の意を表する。

文　　献

1.　小宮悦造著、臨床血液学、昭和３９年１０月５日発行、第１１版、南山堂発行